

森林の働き、特に水をためる能力の大きさ

油津 雄夫

1. 開催日時：平成18年8月30日8:45～10:20
2. 場 所：三里塚小学校
3. シニア参加者：18名
4. 分科会参加者：油津 雄夫、対馬 一男、山田 梢恵(敬称略)
5. 内容及び感想等

御蔭さまで、清田区民シニアスクール・第2回目を何とか終わることが出来ました。ご支援ありがとうございました。

生徒の皆さんは猛烈な蚊の襲来にもめげず、熱心に取り組まれまして、私も楽しく授業を進めることが出来ました。下見の時に予定したのと違って、水の吸収が遅い点があり、実験時間が延びて、最後のまとめが簡単になってことには反省しています。



今回の補完授業を対馬さんのときに少し時間をいただいていたということを知り、区民センターの筒井先生に電話をお願いして、了承をいただきました。即ち、屋外事業の成果を纏めて、評価を話すことができなかったのが、区民センターの筒井先生のところにあるデータを送っていただいてまとめ、評価を話そうということです。

授業の初め筒井先生が話された「油津のプロフィール」のなかの「石狩川に植樹をする運動」について、「是非あらためてお話を聞きたい」という申し出に対しても、少し時間をいただければ幸いです。

について、区民センターの筒井先生には電話をお願いして、一応了承をいただいておりますが、板谷さんからもお話しただければ幸いです。

授業内容を添付します。

清田区シニアスクール 2006.8.30

油津雄夫：ゆづたけお 技術士（林業、建設環境）

森林の働き 特に水との関わり 水を浸透する力、土を流さない力

- 1 浸透能力（水を浸透する力）が大きい（森林の土は隙間が多い）
- 2 流出量を平準化する（水を蓄える力が大きい）
- 3 水食（土が水で流される）を防止している（下草と落ち葉の働き）
- 4 清浄でおいしい水をつくる（森林の土と生物、微生物の働き）

（参考資料： 地球環境と日本の森林、油津雄夫

森のはたらきをはかるための新しい“ものさし”、北海道）

実験 1 水が土にしみこむ時間を計測する（二人一組で行う）

- 1 ペットボトル（500cc = 口の大きさが一定）

をほぼ半分に切って、ジョウゴを作る。

< 図 1 >

（二人で 4 個の中、1 個を切る。

残りの 3 個には計測用の水を入れる）

- 2 ジョウゴを土にしっかり

（じょうごの口の周りに隙間がないように）差し込み、

< 図 2 >

倒れないように手で支える。

森林では 落ち葉を掻き分けてから差し込む。

- 3 水 100cc を計量カップからジョウゴに入れて、土にしみこむ時間（ジョウゴに入れ始めてから全てが土にしみこむ時間）を計測する。

3 - 2 森林、小径、グラウンド、畑で それぞれ 2 回計測する。

実験 2 大雨を想定して、森林と畑 で土の流れる様子を確認する。

大雨 1：じよる

大雨 2：ペットボトル